

## 歓迎されない？東京五輪

東京五輪が招致活動の「闇」をめぐる話題となる。表題の毎日新聞 2015 年 11 月 2 日夕刊「特集ワイド」を思い出した。抜粋して紹介しよう。

リードから一国際オリンピック委員会（I O C）のジャック・ロゲ会長（当時）が 2020 年の五輪開催都市を「トーキョー」と読み上げてから 2 年あまり。多くの国民が歓喜に沸いたあの瞬間が夢かと思うほど、東京五輪・パラリンピックの計画は「黒星」続きだ。新国立競技場の迷走、公式エンブレム問題、膨れあがる開催費一。このままでは「歓迎されない五輪」になってしまうのではないか。



1998 年長野五輪を思い出してほしい。「あの感動」から 17 年後。競技施設の維持管理費は自治体の重荷になっている。長野市の加藤久雄市長は 7 月の記者会見で胸中を明かした。「五輪施設が市の財政の負担になっている。東京五輪でも近隣の都市を含めてできるだけ既存のものを利用したほうがいい」この苦勞を知ってか知らずか、東京都は大規模な競技施設を建設する。

そもそも、大会全体の開催費が一体いくらになるのかが見えていない。7 月の日本記者クラブでの記者会見で組織委員会の森喜朗会長は「当初より 3 倍、お金がかかっている。最終的に 2 兆円を超すことになるかもしれない」と述べたのだ。東京都が招致段階の立候補ファイルで示した大会開催費は 7340 億円。そのうち国と都の税金は 3113 億円。開催費が 3 倍になるとした単純計算では税金は 9339 億円に膨らむ。

20 年東京五輪は、東日本大震災からの復興のシンボルとする「復興五輪」がコンセプトだ。でも、それも既にかすんでしまっているようだ。毎日新聞が今夏実施した岩手、宮城、福島の前被災 3 県 42 市町村の首長を対象にしたアンケート。五輪施設整備の本格化が復興工事に与える影響について、8 割強の 35 人が「懸念している」と回答した。

「日本が今すべきことは福島第一原発事故の解決に最大限の努力をすること。東京五輪は返上しなければいけない」と訴えるのは、元駐スイス大使の村田光平さん。今でも安倍晋三首相の「アンダーコントロール」発言に怒りを隠さない。13 年 9 月の I O C 総会で、原発事故の汚染水は制御下にあると説明した言葉だ。「今も汚染水は漏れているのに。被災自治体の職員に話を聞くと『正直、五輪どころではない』と打ち明けます」

(2016 年 5 月 19 日)